

訓練科目の区分		授業科目名		必須・選択	開講時期	単位	コマ/週
教育訓練課程	専門課程	安全衛生工学		必須	I～II期	2	1
教科の区分	系基礎学科						
教科の科目	安全衛生工学						
担当教員	研究室名	内線電話番号	電子メールアドレス		教室		
授業科目に対応する業界・仕事・技術							
1、生産現場での安全作業(安全人間としての実践力) 2、安全で活力ある明るい職場づくりへのリーダー的役割 3、生産現場での災害、疾病防止対策(ソフト面及びハード面)							
授業科目の訓練目標							
授業科目の目標		No	授業科目のポイント				
1、職場、家庭、日常生活において、本人、職場の仲間、友人、家族などにケガ、病気を、「しない」「させない」大切さを学習する。 2、安全の重要性を認識し、それぞれの場で定められたルール、規則「知って」「実行して」「継承する」ことの大切さを学習する。 3、機械設備の安全対策、作業者の安全対策、セーフティ・アセスメント、その他安全に関する規約と認証などについて学習する。		①	・安全衛生管理の重要性と基本的な取り組みについて知っていること。				
		②	・労働災害の現状と災害の種類・形態、災害レベルの尺度について知っていること。				
		③	・労働災害防止への事業者の責務と労働者の責務について知っていること。				
		④	・災害発生時の構図と災害防止への真の原因追求の必要性を知っていること。				
		⑤	・人的対策(ヒューマンエラー等)、機械設備(本質安全化等)の対策について知っていること。				
		⑥	・作業環境面(作業手順、作業方法、環境改善、安全教育等)の対策について知っていること。				
		⑦	・管理面の対策(KYT・ヒヤリハット・指差し呼称・TBM等)の必要性を理解し実践できること。				
		⑧	・生産現場における疾病(腰痛、粉じん、騒音、メンタルヘルス等)の予防対策について知っていること。				
		⑨	・リスクアセスメントの考え方、手順を知っていること。				
		⑩	・労働安全衛生マネジメントシステムの概要を知っていること。				

授業科目受講に向けた助言	
1、予備知識・技能技術	1、安全衛生管理の基本原則、災害の現状とその形態及び災害防止対策を整理し理解しておく事。 2、職場の安全活動などの主なポイントを整理し理解しておく事。 3、教科書の中での専門用語などは、出来るだけ事前に調べイメージ出来る様にしておく事。
2、授業科目についての助言	1、「自分の安全は自分で守る」為は何が重要か、欠けているものは何か、自問自答する教育の場として下さい。 2、知識を得て実践しなければ意味がありません。得た知識は出来ることから行動に移す努力をして下さい。 3、教育訓練は反復訓練が大切です。一時的なものでなく必要性を理解し計画性を持って取り組んで下さい。 4、私たちの身の回りには色々な危険が潜んでいます。日常生活の中でも意識した取り組みをして下さい。
3、教科書及び参考書(例)	1、教科書 : 労働安全衛生(13).....日本規格協会 2、補足資料 : 安全教本の抜粋.....自作テキスト
4、授業科目の発展性	・「安全の基本を知る」⇒「ルールを守り実践する」⇒「継続し成果を積み上げる」⇒「次の時代にノウハウを継承する」

評価の割合(例)							
指標・評価割合	評価方法	中間テスト	期末テスト(1)	期末テスト(2) 作文		その他 (授業態度)	合計
評価割合	授業内容の理解度	40	40	20			100
	技能・技術の習得度						
	コミュニケーション能力						
	プレゼンテーション能力						
	論理的な思考力、推論能力						
	取り組む姿勢・意欲						
	主体性・協調性・態度・規律					減点(最高10点)	

回数	訓練の内容	範囲(ページ)	訓練の運営方法	訓練課題 予習・復習
1週	<b>1. 労働安全衛生教育を始めるにあたって</b> (1)自己紹介 (2)シラハスの説明及び決め事注意事項 (3)安全衛生第一の思想 【補足資料】		・講義	・安全衛生第一思想の定着化
2週	<b>2. 労働安全衛生の基本</b> (1)尊い生命と健康 (4)トップダウンとボトムアップの融合 (2)活性のある職場 (5)安全衛生の基本コンセプト (3)安全と生産の一体化 【補足資料】	9 ~ 13	・講義	・労働安全衛生の基本的考え方
3週	<b>3. 労働災害の現状</b> (1)災害発生の現状 (4)災害事例(P-57~66) (2)災害レベルの尺度 (3)災害の種類 【補足資料】	14 ~ 18	・講義	・労働災害の現状を認識する
4週	<b>4. 企業責任</b> (1)事業者の社会的責任 (2)法の規制 (3)民事責任 【補足資料】	19 ~ 24	・講義	・関係法令について
5週	<b>5. 災害防止の考え方</b> (1)災害防止の原則 (4)災害対策の4M (2)不安全な状態と不安全な行動 (3)災害の真の要因 【補足資料】	25 ~ 34	・講義	・災害防止の実行具対策
6週	<b>6. 人的対策 (1)</b> (1)不安全な行動の分析 (2)人の行動を決めるもの 【補足資料】	35 ~ 39	・講義	・労働災害基本原因の取り組み方(1) ・人的要因について
7週	<b>7. 人的対策 (2)</b> (3)人の行動に影響を及ぼす原因 (4)人的災害防止策 【補足資料】	39 ~ 47	・講義	・労働災害基本原因の取り組み方(2) ・人的要因について
8週	<b>8. 設備面の対策 (1)</b> (1)機械設備の安全化 (2)安全防護対策 (3)機械設備の点検 【補足資料】	48 ~ 57	・講義	・設備的安全防護対策(1) ・物的要因について
9週	<b>9. 設備面の対策 (2)</b> (4)墜落・転倒防止 (5)飛来落下の防止 (6)爆発火災の防止 【補足資料】	57 ~ 70	・講義	・設備的安全防護対策(2) ・物的要因について
10週	<b>10. 中間テスト</b>	9 ~ 70 及び 【補足資料】	・中間テスト	・テキストを復習すること
11週	<b>11. 作業・環境面の対策 (1)</b> (1)作業方法の安全化 (2)作業方法の改善 【補足資料】	71 ~ 80	・講義 ・演習	・労働災害基本原因の取り組み方(1) ・作業環境的要因について ・作業手順書の作成演習
12週	<b>12. 作業・環境面の対策 (2)</b> (3)環境条件の改善と点検 (4)保護具の着用 【補足資料】	80 ~ 89	・講義	・労働災害基本原因の取り組み方(2) ・作業環境的要因について
13週	<b>13. 管理面の対策 (1)</b> (1)安全衛生管理体制 (4)快適職場 (2)安全教育 (3)セフティー・アセスメント 【補足資料】	90 ~ 108	・講義	・労働災害基本原因の取り組み方(1) ・管理的要因について
14週	<b>14. 管理面の対策 (2)</b> (5)職場の自主活動(危険予知活動) ・KYT、ヒヤリハット活動 について ・指差し呼称・TBMについて 【補足資料】	108 ~ 117	・講義 ・演習	・労働災害基本原因の取り組み方(2) ・管理的要因について ・指差し呼称の演習
15週	<b>15. KYT演習・発表</b> 【補足資料】		・講義 ・演習	・班別グループ討議と発表
16週	<b>16. 継続的な向上に向けて</b> (1)国際的な動向と今後の取り組み (2)リスクアセスメント (3)労働安全衛生マネジメント 【補足資料】	118 ~ 126	・講義	・継続的な取り組み方について
17週	<b>17. 期末テスト1・期末テスト2(作文)</b>	71 ~ 126 及び 【補足資料】	・期末テスト	・テキストを復習すること
18週	<b>18. 職業人としての心構え、明るい職場づくり</b> (1)作文を下にグループ討議・発表 (2)アンケート 【補足資料】		・グループ討議 ・発表	・班別グループ討議と発表